

2024年度「公開教養講座」開講日程・講義概要・講師プロフィール

開講日程(1頁) / 講義概要(1頁) / 講師プロフィール(3頁)

2024年度「公開教養講座」開講日程

会場:DMG MORIやまと郡山城ホール「レセプションホール」 13:30～16:30

開講日	時間帯	講師・テーマ
9月05日(木)	13:30～14:55	①平林章仁先生「神武天皇伝承の古代史」
	15:05～16:30	②平林章仁先生「雄略天皇の古代史」
9月19日(木)	13:30～14:55	③寺澤薫先生「纏向遺跡が語る国家形成の姿」
	15:05～16:30	④寺澤薫先生「纏向王権と卑弥呼」
9月26日(木)	13:30～14:55	⑤田辺征夫先生「長屋王邸宅の発掘がもたらしたもの」
	15:05～16:30	⑥鈴木喜博先生「薬師寺の薬師三尊像」
10月10日(木)	13:30～14:55	⑦甲斐弓子先生「藤原氏繁栄の礎を築いた藤原不比等」
	15:05～16:30	⑧甲斐弓子先生「元明天皇と平城京遷都」
11月07日(木)	13:30～14:55	⑨田辺征夫先生「平城京の終焉とその後」
	15:05～16:30	⑩村田武一郎先生「行基菩薩と豊臣秀吉ー広域ネットワークづくりを先導」
11月14日(木)	13:30～14:55	⑪松村洋子先生「新型コロナ後の訪日客のニーズの変化と奈良」
	15:05～16:30	⑫村田武一郎先生「地域づくりー特性・資源を活かす」

受講料 一般 16,000円 奈良フェニックス大学 OB・OG 14,000円

講義概要

①神武天皇伝承の古代史

初代天皇の神武は、九州の日向から瀬戸内海を経由し、紀伊半島の熊野から上陸して大和に入り、抵抗勢力を征圧して橿原宮に即位したと伝えられるが、今日ではその史実性を確かめることは困難である。ここでは、神武天皇が吉野川下流を経て大和に入ったとある所伝の分析から、神武天皇伝承形成の歴史的背景と時代性を明らかにする。

②雄略天皇の古代史

五世紀後半に実在したことが確かな第21代の雄略天皇とその治世を、古代史の基本史料である『古事記』・『日本書紀』だけでなく、「獲加多支鹵大王」とみえる埼玉県行田市稲荷山古墳出土の鉄剣金象嵌銘文や、「倭王武」とみえる中国の南朝・宋の歴史書『宋書』倭国伝などを用いて、躍動的に復原する。

③纏向遺跡が語る国家形成の姿

三世紀の初めに三輪山の麓に忽然として出現した纏向遺跡。これまでの発掘調査の成果を紹介する中から、この遺跡のほかには見られない特別な要素を紹介する。そこから纏向遺跡がヤマト王権と呼ぶ政体の最初の大王都であること、この国家形成の国家形成に果たす重要性を紹介する。

④纏向王権と卑弥呼

1回目の講義を受けて、纏向遺跡と『魏志倭人伝』に記された邪馬台国、卑弥呼殿関係を文献と2世紀列島の考古学の成果とを照らし合わせながら考究する。

⑤長屋王邸宅の発掘がもたらしたもの

平城宮跡の東南に隣接する位置で1986年から3年間にわたって発掘された大邸宅跡は、出土した3万点を

超す木簡から長屋王邸であることが判明した。このことにより奈良時代の高級貴族の生活実態、ひいては平城京の実像を復元する貴重な資料が得られた。同時に、長屋王をめぐる奈良時代初期の歴史が大きく見直される契機ともなった。

⑥薬師寺の薬師三尊像

古代彫刻の頂点に立つ、薬師寺の本尊・薬師三尊像はいつ造られたのか？ 藤原京から運んできたか、遷都後に新たに鑄造されたか？いまだ決着をみない、この問題について、仏像の見方(入門編)を学ぶ立場から考える。

⑦藤原氏繁栄の礎を築いた藤原不比等

古代を生きた人々の心や考え方は、発掘調査を行っても見えるものではない。しかし、心の痕跡を瓦、瓦当范の移動等で見ることができる。その景色の共通性を海外に見ることもできる。

⑧元明天皇と平城京遷都

現在我々が日常的に便利に使うシステムや、交通等、奈良時代に出来上がったと言っても過言ではない。それも中継ぎと考えられがちな女帝たちの活躍によるものである。彼女たちの役割は、果たして中継ぎに留まるものだけだろうかという見解にも及んでいくことになる。

⑨平城京の終焉とその後

1世紀以上にわたって模索されてきた古代の都の形が、平城京でようやく整った。しかし、約70年で都は、長岡京、そして平安京へと移った。その後の平城京がどうなっていたか。最近の発掘調査で少しずつその様子が解明されてきている。廃都後の平城京とさらに今日の奈良までのつながりを概観してみよう。

⑩行基菩薩と豊臣秀吉ー広域ネットワークづくりを先導

行基菩薩は、庶民が苦しい生活を強いられるなか、農業開発等によって庶民の生活を支えた。また、大阪湾湾奥部に交易拠点を作り、瀬戸内海各地域との海運のネットワークを整備した。豊臣秀吉は、大阪城下に掘割を造り、商人を集め、西日本各地域とつながる交易ネットワークを創り上げた。秀吉の基盤整備は、その後、北前船、菱垣廻船による全国ネットワークへと展開し、大阪を全国の情報ネットワーク拠点へと発展させた。

⑪新型コロナ後の訪日客のニーズの変化と奈良

新型コロナ後、急激なインバウンドの戻りがあったが、訪日客の行動は、小グループでの体験型や参加型のプライベートな企画が増えている。それは奈良にとって、有利なのか…？ この変化に対応できるポテンシャルが奈良には限りなくある。

⑫地域づくりー特性・資源を活かす

日本の各地域における少子高齢化の急進展は、多くの地域の持続可能性に暗雲をもたらしている。地域の活力を醸成するにあたっては、地域の特性と地域が連綿と積み重ねてきた資源を活かすことが最重要課題のひとつであり、地域特性・資源を活かす地域づくりを進めたいものである。奈良フェニックス大学地域研究科受講生たちが精力的に行っている地域づくりプロジェクトのいくつかも紹介する。

講師プロフィール

平林章仁 先生 元・龍谷大学教授

- ◇1948年奈良県生まれ。龍谷大学文学部卒業。博士(文学)。専門は、古代の政治・文化・社会・宗教の歴史
- ◇文献史料をはじめ、考古学・歴史地理学・民俗学・神話学・文化人類学などの成果も援用して、日本古代の政治・文化・社会・宗教などについて、実像の解明を目指している。
- ◇単著に、『鹿と鳥の文化史』、『橋と遊びの文化史』、『蘇我氏の実像と葛城氏』、『七夕と相撲の古代史』、『三輪山の古代史』、『七世紀の古代史』以上白水社、『神々と肉食の古代史』吉川弘文館。『謎の古代豪族葛城氏』祥伝社、『「日の御子」の古代史』塙書房、『天皇はいつから天皇になったか?』祥伝社、『蘇我氏の研究』雄山閣、『蘇我氏と馬飼集団の謎』祥伝社、『物部氏と石上神宮の古代史』和泉書院、『雄略天皇の古代史』、『神武天皇伝承の古代史』志学社。共著に『日本書紀の読み方』講談社、『日本古代の政治と宗教』同成社、『古事記を読む』、『人と動物の日本史 4』吉川弘文館、『環境と心性の文化史 上・下』日本古代の宗教と伝承』勉誠出版、『狩猟と供犠の文化誌』森話社、『三輪山と古代の神まつり』学生社など

寺澤薫 先生 桜井市纏向学研究センター所長

- ◇1950年東京都生まれ。1973年同志社大学文学部文化学科(文化史学専攻)を卒業。その後、奈良県立橿原考古学研究所の所員として発掘調査・研究に携わる。2012年4月から奈良県桜井市に設立された纏向学研究センター所長に就任
- ◇主要な研究テーマは、考古学視点からの国家形成史、農業史、比較文化史。纏向遺跡についても重要な見解を展開。とくに弥生時代や纏向型前方後円墳、出現期古墳に関する研究では第一人者であり、土器様式に関して「布留0式」を提唱した。
- ◇著書に、『卑弥呼と大和王権』中公選書 中央公論新社(2023年)、『弥生国家論—国家はこうして生まれた—』敬文舎(2021年)、『弥生時代国家形成史論』吉川弘文館(2017年)、『弥生時代の年代と交流』吉川弘文館(2014年)、『王権と都市の形成史論』吉川弘文館(2011年)、『青銅器のマツリと政治社会』吉川弘文館(2009年)、『考古資料大観』第10巻(弥生・古墳時代の遺跡と遺構)(編著)小学館(2004年)、『日本の歴史02巻 王権誕生』講談社(2000年)、『最新邪馬台国事情(共著)』白馬社(1998年)など

田辺征夫 先生 公益財団法人元興寺文化財研究所所長

- ◇1944年三重県生まれ。慶應義塾大学卒業、京都大学大学院文学研究科修士課程中退。奈良国立文化財研究所において古代都城・寺院などの発掘調査研究に従事。文化庁美術工芸課主任文化財調査官、東京国立博物館考古課長、奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部長、独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所所長、独立行政法人国立文化財機構理事奈良文化財研究所所長、奈良県立大学特任教授、公益財団法人大阪府文化財センター理事長、一般財団法人仏教美術協会理事長などを経て、現在、公益財団法人元興寺文化財研究所所長
- ◇著書に、『平城京の時代(古代の都)』(共編著, 2010年)、『歴史考古学大辞典』(共編著, 2007年)、『平城京街とくらし(教養の日本史)』(1997年)、『遺跡が語る古代史(教養の日本史)』(1996年)、『平城京を掘る—地中からのメッセージ』(1992年)、『発掘のロマン最前線』(1993年)など

鈴木喜博 先生 奈良国立博物館名誉館員

- ◇東北大学大学院文学研究科美学美術史学修了。奈良県教育委員会、大和文華館、文化庁、奈良国立博物館(上席研究員、修理指導室長)を経て、同館名誉館員。専門は、日本美術史、おもに日本彫刻史
- ◇著書・論文に、「檀像の概念と栢木の意義」(講談社版『日本美術全集』)、『仁王像大修理』共著(朝日新聞社)、『宿院仏師』(至文堂『日本の美術』)、『日本美術史ハンドブック』共著、「古代の木彫仏の展開—木仏師の系譜をたどる」(『歴史読本』)、「平城京の木の仏像 奈良時代木彫論」(『別冊太陽 平城京』)、『対比で見る日本の仏像』(パイインタナショナル)

甲斐弓子先生 帝塚山大学考古学研究所特別研究員

- ◇大阪府生まれ。帝塚山大学教養学部卒業。帝塚山大学大学院博士後期課程修了。博士(学術)。帝塚山大学考古学研究所特別研究員

- ◇留学先はアメリカ。卒業後ベルギーで起業。ベルギー王国より王冠勲章受章(1996年)
- ◇1999年「大津市国の重文見送幕」をベルギーで復元完成(この見送幕は、約500年前にベルギーで制作されたタペストリーで、ベルギーで復元レプリカを制作)。大津歴史博物館で見送幕完成セレモニーを大使・総領事のご臨席のもと行った。
- ◇著書に、『わが国古代寺院にみられる軍事的要素の研究』(雄山閣)、『平城京を歩く』(森郁夫と共著、淡交社)、『僧寺と尼寺』(森郁夫と共著、帝塚山大学出版会)、『鎮めとまじないの考古学』(森郁夫と共著、雄山閣)
- ◇日本考古学協会会員、日本宗教文化史学会会員、日本ベルギー協会会員

村田武一郎 先生 奈良フェニックス大学運営委員長・学長

- ◇1949年石川県生まれ。神戸大学工学部建築学科卒。一級建築士。大阪大学博士(工学)。民間研究機関を経て、2000年4月～2014年3月奈良県立大学教授、2014年4月～2018年3月帝塚山大学教授。専門は、地域計画、地域産業政策、沿岸域環境計画
- ◇関西文化学術研究都市、国際花と緑の博覧会、大阪湾ベイエリアの開発整備、大阪湾の環境保全・創造、阪神・淡路大震災からの復興などに関する計画、近畿各地域の地域振興計画、ストレス社会と心の健康づくりプロジェクトなどに従事
- ◇2000年からは、地域づくり人材(地域プランナー・コーディネータ)の育成、奈良県各地域における地域づくりの指導・支援、に注力している。
- ◇著書に、「インキュベーター企業創造の時代」(編著)、「ストレス社会と心の健康」(共編著)、「これからの安全都市づくりー阪神・淡路大震災の教訓を踏まえて」(共編著)、「地域創造へのアプローチ」(共編著)、「海の環境学習ハンドブック子ども編」(共編著/国土交通省近畿地方整備局コミュニケーション型国土行政コンテスト特別賞受賞)、「新版 海域環境創造事典」(共監編著/日本沿岸域学会出版・文化賞受賞)、「地域の時代を創るー地域発展と“ひと”の役割」(編著)、「海の科学」(共監編著)、「奈良の将来ビジョンー県民からの129の提案」(共編著)、「なら工房街道」(共監修)、「地域プランナー・コーディネータ教科書」(共編著,OM環境計画研究所)、小説「地域はみんなで創るー地域はインキュベータ」(単著,奈良フェニックス大学HPにて公開など)
- ◇一般社団法人地域づくり支援機構理事長、工房街道推進協議会顧問など

松村洋子 先生 奈良県公認ツアーエキスパートの会代表

- ◇1984年奈良SGGクラブに入会、1998年より奈良SGGクラブ副会長(18年間)。2016年に退任し、名誉会員。2016年より、奈良県公認ツアーエキスパートの会代表
- ◇奈良県との協働事業として、外国からのお客様が目的別に奈良を楽しんでいただけるように、コース別マップ(各14コース)関空からのトランジットコースマップを作成
- ◇平城遷都1300年祭に向けて外国からのお客様向けの同行ガイド立ち上げに協力。開催期間中はガイド
- ◇外国からのお客様が、地図を片手にガイドなしでも歩けるようにとの趣旨で、発行されているフリーペーパー「naranara」の発起人でアドバイザーとして取材や原稿等に協力
- ◇ロンドンの「InsightGuide」社の許可を得て、「Nara Insight Guide」を出版(2017年1月)
- ◇2016年奈良県観光事業功労者表彰。元。観光庁多言語解説整備事業監修者。関西広域連合協議会・観光部門委員。2022年9月ユニバーサルデザインアドバイザー認定